

1680

第一一第 決行指定 大臣 決裁指定 永久 保存期限

房官臣大		課局務主		大臣			件名	番號	受領
了結	領受	出提	領受	號番	大臣				
昭和 年 月 日	昭和 年 五月廿六日	昭和十四年 五月廿六日	昭和 年 月 日	法發第一九五號	板垣			神田芳一死刑執行ノ件	起元應(課)名
(決行後 決回覽)		連帶		局長	次官	政務 次官	參與官		
局長		局長		主務 課長	高級 副官	書記官		回覽課名	
長課		長課		主務 課員	主務 副官	審案 筆記者			

政務次官 回付 決裁(前)連帶 課名

軍部

兵務

決行(決裁)後 回覽課名

陸軍部 14.5.5 軍事課

木 根 町 市 一 番

大臣ヨリ留守第三師團長へ達案

陸密第 號

第三

別紙命令其師團軍法會議檢察官ニ
傳達スヘシ

陸密第八四九號

昭和四年五月二十七日

(理由)

軍法會議ニ於テ言渡シタル死刑ノ執行ハ
陸軍大臣ノ命令ヲ必要トスルニ由ル

(参照) 陸軍軍法會議法第三章死刑執行陸軍大臣命令ニ依ル

陸軍

陸密第

命號
令案

第三師團軍法會議檢察官

神田若一軍中逃亡、竊盜殺人、住居侵入、
強盜、強盜致死事件ニ付第三師團軍
法會議ニ於テ言渡シタル判決ノ通死
刑ヲ執行スヘシ

昭和十四年五月二十七日

陸軍大臣 板垣征四郎印

陸密第八五〇號

昭和十四年五月二十七日



判決

大阪府

辰次郎 四男 新岡 配違夫

野砲兵第四聯隊第七中隊

第一補充兵役陸軍砲兵二等兵

神田 芳一

大正六年一月二十八日生

右ノ者ニ對スル竊盜軍中逃亡殺人住居侵入強盜強盜致死被告事件ニ付當軍法會議ハ檢察官陸軍法務官小幡通徳干與審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人芳一ヲ死刑ニ處ス

押收ニ係ル拳銃一挺（證第十一號）拳銃實包五發（證第十二號）

縦縞ズボン一着（證第十四號）ハ何レモ之ヲ被害者木下清ニ贈付

ス

理由

被告人ハ性短慮放逸ニシテ勉學ヲ好マズ尋常科第四學年ノ課程ヲ終ルヤ廢學シテ家業タル大工職ノ見習ヲ爲シ居タルモ兎角實父トノ間融和ヲ缺キ家業ヲ抛テテ京都市ニ赴キ義兄ノ許ニ在リテ陶器タイル製造職ヲ見習ヒ居タルモ未續セス更ニ大阪市ニ出テ菓子製造販賣店店員等ニ傭ハレタルカ次テ十六歳ノ頃ヨリ新聞配達夫菓子配達人又ハ煉炭工場雜役夫トシテ大阪市京都市神戸市岡山市等ニ於テ轉々勤先ヲ涉リ歩キ其ノ開放縱ナル生活ヲ續ケ居タルカ昭和十三年八月十六日臨時召集ヲ令セラレ同年九月一日野砲兵第四聯隊留守隊ニ照召入隊シ次テ同年十二月四日補充要員トシテ滿洲國三江省佳木斯ニ派遣セラレ即日事變勤務ニ從事中ナル肩書部隊ニ編入セラレ爾來同地ニ駐屯シ居タルモノナル處

第一應召前

一 大阪市東淀川區十三西之町二丁目北尾新聞舖ニ傭ハレ新聞配達ニ從事中同十一年九月頃同シク新聞配達夫トシテ同所ニ傭ハレ

陸軍

タル
青村伊三郎ト相識リ

同人ト交遊中國人ヨリ共ニ煙草狙ヲ爲サシコトヲ勸誘セラルル
ヤ之ニ應シテ同十二年二月下旬同人ト共謀ノ

福田幾太郎方ニ於テ家人ノ不在ニ乘シ同人所有
ノ一圓金貨一枚金縁眼鏡一個外數點ヲ竊取シタルヲ初トシ同人
ト共謀シテ同年三月二十一日頃ヨリ同年七月三日頃迄ノ間ニ於
テ

江口秋代方外二十數箇
所ニ於テ前後二十六回ニ亙リ同人外二十四名所有ノ現金三百四
十圓餘衣類有價證券其ノ他雜品計三百數十點時價合計約五千百
餘圓相當ノモノヲ竊取シ

三、同十三年一月頃同市北區北梅田町大阪毎日新聞舖北梅田出張所
ニ備ハレ新聞配達ニ從事中當時同出張所ニ新聞配達夫トシテ備
ハレ居タル宮崎縣

今西憲ト共謀ノ上同年
三月二十日頃ヨリ同年四月二十一日頃迄ノ間前後三回ニ亙リ
高崎照夫方外二箇所ニ於テ

同人外二名所有ノ銀行預金通帳一冊（預金高二百五十圓）現金三十二圓四十錢洋服類衣類貴金屬類雜品等合計三十九圓斷時價合計約九百五十八圓相當ノモノヲ竊取シ

第三 德木斯ニ駐屯中同年十二月十五六日頃郷里ノ實兄徳太郎カ右伊三郎ヲ檢舉シタル司法警察吏原本百平ノ旨ヲ承ケ被告人カ鐵ニシタル處同十四年一月三日頃之ヲ披見シタル被告人ハ右伊三郎カ既ニ檢舉セラレアルヲ察知シ司直ノ手ハ早晚巴レノ身ニモ及フヘント思惟シ捕ヘラレテ職名ヲ賜サンヨリハ寧ロ逃走スルニ如カストナシ茲ニ意ヲ逃走ニ決シ同月六日午後一時十分頃將校當番服務ノ爲外出スル如ク裝ヒ公用證ノ交付ヲ受ケ外出シ其ノ體逃走シ佳木斯驛ニ於テ汽車ニ投シ哈爾濱新京京城釜山下關ヲ經テ同月十二日午前七時頃岡山驛ニ着シ同驛ニ下車シ爾來兵庫縣大阪府京都府愛知縣靜岡縣東京府三重縣ノ各府縣下ヲ徘徊ノ末同月三十日午後七時三十分頃三重縣桑名郡木曾川岬村地内木

曾川本流ニ於テ巡查ノ爲逮捕セラレ

第三右逃走ニ際シ豫テ同聯隊陸軍主計中尉木下清ノ當番兵トシテ同聯隊佐木斯養任合同二號官舎ナル同中尉ノ居室ニ出入シ同人ノ所持品ヲ知悉シ居ルヲ奇管トシ同月六日午後二時頃同官舎ニ立寄り同中尉ノ居室ニ置キアリタル同人所有ノ間着洋服上衣黒縦縞ズボン（證第十四號）黒冬オーバー各一着中折帽子寫眞機（證共）各一個ブローチンノ中型拳銃一挺（證第十一號）拳銃實包十四發（證第十二號）及黒ボツクス短靴一足ヲ竊取シ之ヲ着帶携行シテ同官舎ヲ立出テ

第四右逃走中

一、同月十二日午前七時頃岡山驛ニ下車シテ徒歩ニテ姫路市方面ニ向テ途中岡山市附近ノ野外ニテ右拳銃ノ試射ヲ爲シ射撃ノ方法ヲ會得シタル上實包六發ヲ裝填シ之ヲ擊發裝置ト爲シタル儘ズボン右物入ニ忍ハセテ携行シ徒歩又ハ自轉車ニ依リ姫路市ヲ經テ大阪市ニ向ヒ翌十三日正午頃兵庫縣印南郡阿彌村^(地)地徳ナル通

柳鹿島神社參詣道第池西側道路ニ差蒐リタル際偶々

大日本セルロイド株式會社網平工場技師横井時

和妻明子（當三十八年）カ其ノ長男ノ中學校又學所願ノ爲同神社ニ參詣ノ歸途被告人ヲ追越シ傍ヲ行過キントスルヤ恰モ所持金ナク空腹ヲ訴ヘ疲勞困憊シ居タル被告人ハ同人ニ慫ミヲ求メ金錢ノ惠ミヲ受ケント欲シ同人ノ面前ニ出テ平身低頭シテ金錢ヲ惠與セラレ度キ旨哀願シタルニ同人カ之ニ應セス其ノ袂ヲ捉ヘ居タル被告人ノ手ヲ振り拂ヒ且ツ被告人ノ胸部ヲ突キタル爲被告人ハ憤怒ノ餘同人ノ頭部ヲ一回毆打シタル處同人カ一主人カ後カヲ來マストト大聲ニテ叫ビタル折柄道路上ニ通行人ノ近付キアルヲ見ルヤ痛ク昂奮シ居タル被告人ハ周章狼狽ノ末突體ニ右手ニテズボン物入内ヨリ右拳銃ヲ取出シ同人ノ斜前方約三尺ノ距離ヨリ銃口ヲ同人ノ胸部ニ向ケ同人ヲ死ニ致スヘキ事ヲ認識シナカラシ連續二發ヲ發射シ彈丸ヲ同人ニ命中セシメ因テ同人ノ前胸部左手掌及右上臑部ニ各貫通銃創一個

ヲ生セシメ同人ヲシテ胸部銃創ニ因ル急性失血ノ爲其ノ傷ニ於テ死亡スルニ至ラシメ

三有犯行後職ヲ求ムル爲大阪市ニ到リ同市内ヲ徘徊中同月十六日午前一時頃

カフエー丸一奉津田

總治郎一當六十三年一方便入口ノ稍々開キ居タルヲ奇貨トシテ金品竊取ノ目的ヲ以テ同入口ヨリ屋内ニ侵入シ同人方客席ノ間ニ於テ睡眠ヲ爲シタル後同日午前六時頃寢室ニ忍入り同室ニアリタル脱衣内ノ財布中ヨリ同人所有ノ現金二圓五十錢ヲ竊取シ更ニ同室内ノ火鉢及水屋ノ抽斗ヲ開キ金品ヲ物色中右總治郎カ目覺メテ誰何シタル處被害人ハ直チニ唇直リ右拳銃ヲ取出シ銃口ヲ同人ニ擬シ一大きナ聲ヲスルト之ダゾ金ヲ出セト申シ向ケテ同人ヲ脅迫シ因テ同人ヲシテ金十圓ヲ交付セシメテ之ヲ強奪シ

三、次テ京都市ニ至リ同地ニ二日間滞在シタル後名古屋市ニ來リ同市内ヲ流浪中同月二十一日午後八時頃

三菱重工機株式会社名古屋發動機製作所工作部長寺尾重
 義（當四十八年）方前ノ空地ニ貨物自動車ノ置キアルヲ認メ夜
 ヲ明ス爲該自動車運轉臺ニ處シ休憩中右重義方ニ侵入シ金品ヲ
 竊取セントノ惡心ヲ生シ同日午後十二時頃同人方生廻ヲ豫越シ
 テ廊内ニ侵入シ勝手口ヨリ屋内ニ忍入り勝手板ノ間ニ於テ寮人
 ノ寢靜マルヲ待チテ翌二十二日午前三時頃食堂ノ間ニ入り同室
 ニアリタル箆筒ノ抽斗ヲ開キ金品ヲ物色中寢室ニ就寢中ナリシ
 右重義カ目覺メテ寢室ノ隣室ナル八疊ノ間ヨリ同間ト食堂ノ間
 トノ間ノ襖ヲ開キ現ハレ「泥棒ダ」ト叫ビ被告人ニ掴ミ重ルカ
 如キ氣勢ヲ示スヤ被告人ハ其ノ逮捕ヲ免ルル爲右拳銃ヲ右手ニ
 持チ同人ノ前方四、五尺ノ距離ヨリ矢廳ニ同人ノ身邊ヲ狙ヒ連
 續ニ發射撃シ因テ同人ノ右上膊部ニ貫通銃創及上腹部中央ヨリ
 射入セラレ右側腰筋ニ止ル銃創各一個ヲ生セシメ同人ヲシテ該
 腹部銃創ノ爲出血著シク血壓降下シ生理機能ヲ一時失ヒタル爲
 消化管ノ内容ヲ肺ニ吸入シタルニ起因スル嚔下肺炎ノ爲同月二十

三日午前七時頃名古屋醫科大學附屬病院ニ於テ死亡スルニ至リシメ

四次ヲ右重義方ヲ立出テ名古屋市附近ノ山中ニ倒リ右拳銃内ノ霰彈二發ヲ抽出シテ豫備彈倉ニ納メタル七發ノ實包ヲ裝填シ之ヲ携帶シテ徒歩又ハ自轉車等ニ依リ東京市ニ向フ途中同月二十四日午後七時頃靜岡縣

菓子

雜貨小賣商高林源太郎（當四十一年）方前ニ差蒐リタル際同人方裏手ニ神社ヲ認メ同神社内ニ於テ夜ヲ明サント欲シ該神社側所ニ入り休憩中右源太郎方ニ竊入り金品ヲ竊取セントノ意ヲ生シ翌二十五日午前一時頃同人方裏出入口ノ施設ヲ外シ屋内ニ侵入シ家人ノ勦聲ヲ窺ヒタル後同二時三十分頃中ノ間ニ入り茶籠筒ノ抽斗ヲ開キ金品ヲ物色中右源太郎カ覺醒シテ寢室ト申ノ間ノ間ノ襖ヲ開キ誰何シツツ被害人ノ面前ニ立現ルルヤ被害人ハ同人ヲ脅迫シテ金鏡ヲ照察セント企テ右手手ニテ所轄ノ拳銃ヲ取出シ之ヲ同人ニ擬シ一金ヲ出セト告ケタル處同人カ毫モ怯ム

所ナク一何ヲ外へ出口ト暴怒號シテ二三歩進ミ寄り被告人ニ
 挑ミ掛リタルヨリ被告人ハ同人ヨリ逮捕セラレシコトヲ虞レ之
 ヲ免ルル爲同人ヲ殺害センコトヲ決意シ同人ノ前方約三尺ノ距
 離ヨリ同人ニ擲シ居タル拳銃ヲ以テ其ノ胸部ヲ目撃ゲルヲ射
 撃シ同人ニ彈丸ヲ命中セシメテ同人ヲ倒シ更ニ起上ラントス
 ル同人ノ胸部ヲ狙ヒ再ヒ射撃シ次テ同人ノ妻よしゑ一當三十八
 年一カ吃驚シテ寢室ヨリ走り出テ被告告人ニ對シ「オオ金ハ此
 處ニアリマスヨ」ト叫ビツツ現金十一圓餘在中ノ金入ヲ交付シ
 タルヨリ之ヲ強奪シ尙右よしゑカ恐怖ノ餘屋外ニ逃ルル爲其ノ
 簾中ノ間ヨリ土間ニ飛降り裏出入口ニ到ラントスルヤ被告告人ハ
 同人カ救ヲ隣人ニ求ムルモノト思惟シ聲口同人ヲ殺害シテ犯行
 ノ發覺ヲ防カント決意シ同人ノ背後約六尺ノ距離ヨリ手ニシ居
 タル拳銃ヲ以テ同人ノ身邊ヲ狙ヒテ射撃シ彈丸ヲ同人ニ命中セ
 シメタルニ同人カ躊メキツツ尙モ二三歩進ミ裏出入口ノ戸ニ手
 ヲ掛ケントスルヤ同人ノ許ニ走り寄り其ノ背後ヨリ左手ヲ以テ

同人ノ襟元ヲ摺キ銃口ヲ後頸部ニ當テテ更ニ一發發射シ以テ源
 太郎ニ對シ胸部ヨリ背部ニ貫通スル二個ノ銃創ヲ生セシメ因テ
 同人ヲシテ該銃創ニ依ル生命貴重中樞機能ノ即時廢絶及急性失
 血ノ爲よし急ニ對シ頸部胸部及左手第四指ニ各貫通銃創一個ヲ
 生セシメ因テ同人ヲシテ頸部及胸部ノ銃創ニ因ル急性失血ノ爲
 何レモ其ノ場ニ於テ死亡スルニ至ラシメタルモノナリ

而シテ被告人ノ右住居侵入及竊盜強盜準強盜致死強盜殺人ハ夫々犯
意繼續ニ出テタルモノトス

右ノ事實ハ

一 犯意繼續ノ點及傷害ノ部位程度死因ヲ除ク爾餘ノ事實ニ付被告人
ノ當公延ニ於ケル判示同趣旨ノ供述

一 吉村伊三郎ニ對スル竊盜誹告事件ノ確定判決牒本中同人カ被告人
ト共謀ノ上昭和十二年三月二十一日頃ヨリ同年七月三日頃迄ノ間

ニ於テ
江口秋代方外二十
數箇所ニ於テ前後二十六回ニ亙リ同人外二十四名所有ノ現金計二

百四十圓餘衣類有價證券其ノ他雜品三百數十點時價合計五千百餘
圓相當ノモノヲ竊取シタル旨ノ記載

一 今西惠ニ對スル竊盜被告事件ノ確定判決牒本中同人カ被告人ト共

謀ノ上昭和十三年三月二十日ヨリ同年四月二十一日迄ノ間至四ニ
亙リ
高崎照夫方外二箇所ニ

於テ前後三回ニ亙リ同人外二名所有ノ銀行預金通帳一預金萬二百

五十圓、現金三十二圓五十錢、洋服類、貴金屬類、雜品等合計三十九點、時價約九百五十八圓、相當ノモノヲ竊取シタル旨ノ記載

一、野砲兵第四聯隊第七中隊長伊東二郎ノ作成ニ係ル不在被告人調書ト題スル警面中被被告人ハ昭和十四年一月六日十三時十分離軍並計中尉木下清當番兵トシテ奏任官會ニ手入ニ赴クヘク公用外出中逃亡シタルモノナル旨ノ記載

一、司法警察吏木金清七ノ作成ニ係ル逮捕手續書ト題スル警面中昭和十四年一月三十日午後七時三十分頃三重縣桑名郡木曾町村木會川本流ニ於テ被告人ヲ逮捕シタル旨ノ記載

一、豫審官ノ木下清ニ對スル訊問調書中判示第三ノ事實ニ照應スル被審アリタル旨ノ供述記載

一、鑑定人本因蘭ノ作成ニ係ル鑑定書中創傷ノ部位程度及死因ニ付判示第四ノ一二ニ符合スル記載

一、豫審判事ノ證人黒田忠次郎ニ對スル訊問調書中同人ノ供述トシテ自分ハ昭和十四年一月十三日

ニ屬ル件

兼次ノ處へ行ク途中會社ノ十二時ノ汽笛ヲ聞キタル後第池ヨリ少シ下ノ處ニテ休憩中バント云フ音ヲ聞キ次テ又一發バント云フ音ヲ耳ユシタルヨリ其ノ方ヲ見タルニ黒イ様ナオーバーカ何カヲ着ヌズボンヲ穿イタ男カ自分ノ休憩シ居タル歩道ヲ北ヨリ南ノ方ニ走り去リタルカ其ノ後田圃ノ中ニ女カ轉ヒ居ルト聞キ引返シテ見タルニ女カ田圃ニ倒レ居リタルカ其ノ女ハ首ヲ下ヘダラツト下ケ動カサリシヨリ死ニ居タルモノト思ヒタル旨ノ記載

一 同判事ノ證人津田龜次郎ニ對スル訊問調書中同人ノ供述トシテ昭和十四年一月十六日午前六時少シ過目覺メタル處前夜消燈シタル管ノ電燈カ點キ居タルヨリ誰ガ電氣ヲ點ケタカト大聲ニテ云ヒタルニ一人ノ大キナ男カ立チ居リオイ僕タト云ヒ拳銃ヲ自分ノ方ニ向ケ大キナ聲ヲ出シタラ是ダソト云ヒ次テ金鏡ヲ要求シタルヨリ金ヲ出サネハ拳銃ニテ撃タヌトモ限ラヌト云フ長柄心ニ驅スラレ現金十圓ヲ渡シタリ尙當日脱キ置キタル厚岡ノポケット内ノ財布ニ入レ置キタル現金二圓六七十錢ヲ盜マレタル旨ノ記載

一、鑑定人小宮喬介ノ作成ニ係ル鑑定書中本屍體（寺尾重義）ノ屍體ヲ指ス一ハ二銃創ヲ受ケ其ノ一ハ左前方ニ差出セル右上肢ヲ前膊外側ヨリ上膊内側ニ貫通シ右前胸部ノ皮膚ニ至リタルモノエシテ他ノ一ハ上腹部中央ヨリ射入セラレ大網膜大腸間膜及右側腰筋ヲ損傷シ彈丸ハ右側腰筋ニ止ルモノエシテ該銃創ハ共ニ死亡ノ前日ニ於テ受傷シタルモノエシテ腹部ニ銃創ヲ受ケ出血著シク血壓降下シ生理機能ヲ一時失ヒタル爲消化管ノ内容ヲ肺ニ吸入シタルモノエシテ之ニ起因スル嘔下肺炎カ死因ナル旨ノ記載

一、豫審判事ノ鑑定人寺尾ふで子ニ對スル訊問調査中同人ノ供述トシテ二十二日（昭和十四年一月）午前三時頃食堂ノ方ニ何カ紙ヲ落ス様ナ管カシタル爲自分モ夫モ目ヲ覚シタリ自分ハ嵐ノ嘔ク管ナラント思ヒ大シテ氣ニモ止メヌ居タルニ聞モナク食堂ノ方ニ電氣カ點イタト見エ燈リカ欄間ヨリ洩レ來リ同室ニ人ノ居ル氣配カシタルヨリ夫ハ見テ來ルト申シ襖ヲ閉ケ入屋ヲ通り同室ト食堂ノ間ノ襖ヲ開ケタ様ナ管カシタト思フト二度拳銃カ銃カノ管カ開ヘ

タルヲ以テ驚キ飛越キ八疊ノ處敷ヘ出テタルニ夫ハ其處ニ倒レ崩
リタリ尙夫ハ一月二十三日午前七時少シ前名古屋醫科大學附屬病
院ニ於テ死亡シタル旨ノ記載

一 鑑定人浦元方時ノ作成ニ係ル鑑定書中源太郎ノ屍體ニ關スル部分
ニ於テ本屍創傷ハ何レモ前面胸部ヨリ後方背部ニ貫通スル貫通銃
創ニシテ一ハ心臟ヲ貫通シ一ハ肝臓及第一腰椎ヲ貫通背體ヲ挫碎
シ共ニ致命傷ナリ死因ハ生命重要中樞機能ノ即時廢絶及急性失血
死ナル旨よし及ノ屍體ニ關スル部分ニ於テ本屍ノ創傷ハ一ハ後頸
部中央部ヨリ前頸部左側ニ貫通シ一ハ左手ヲ右胸部ニ當テタル姿
勢ニ於テ右背部ヨリ右胸部ニ貫通スル貫通銃創ニシテ兩者共背後
ヨリ前方ニ貫通シ何レモ出血量多量ニシテ致命傷ニシテ死因ハ急
性失血死ナリトスル旨ノ記載

一 豫審判事ノ證人鈴木耕一ニ對スル訊問調書中同人ノ供述トシテ
本年一月二十五日正午過頃小學校ニ行ク近所ノ娘カ自分方ニ來リ
高林方ノ墓ノ戸モ表ノ戸モ開リ居リタル爲變ニ思ヒ中ヲ覗キタル

ニ嫁サンカ倒レ居タリト申シタル故自分ハ自轉車ニテ高林方ニ到
 リ高戸ノ隙間ヨリ覗キタルユ土間ユ内儀サンカ倒レ其ノ附近ニハ
 血カ流レ居リ中ノ圓ニ源太郎サンカ倒レ居タルヨリ源太郎サン源
 太郎サント呼ビタルモ返事ナカリシヲ以テ警察ユ急報シタル旨ノ
 記載

一 押収ニ係ル拳銃一挺（證第十一號）拳銃實包五發（證第十二號）
 彈丸五個（證第一號同第十號同第二十一號同第三十八號同第四十
 號）藥莢七個（證第二號同第十七號同第三十九號）及繼續スギン
 一着（證第十四號）ノ各存在

ヲ綜合考覈シテ之ヲ認メ總意繼續ノ點ハ被告人カ判示期間内ニ同種
 行爲ヲ反覆累行シタル事跡ニ徴シテ之ヲ認ム

法律ニ照スユ被告人ノ判示所爲中第一竊盜ノ點ハ刑法
 第二百三十五條第六十條ニ第三竊盜ノ點ハ同法第二百
 三十五條ニ軍中逃亡ノ點ハ陸軍刑法第七十五條第二號ニ被告人ノ點ハ刑
 法第九十九條ニ住居侵入ノ點ハ同法第三百三十條第五十五條ニ強盜ノ

點ハ同法第二百三十六條第一項ニ準強盜致死ノ點ハ同法第二百三十八
 條第二百四十條後段ニ強盜殺人ノ點ハ同法第二百四十條後段ニ各該
 當スル處竊盜強盜準強盜致死強盜殺人ハ連續犯ナルヲ以テ刑法第五
 十五條第十條ヲ適用シ重キ強盜殺人ノ一罪トナスヘク強盜殺人ト住
 居侵入トハ互ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後
 段第十條ニ則リ重キ強盜殺人罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定刑中死刑ヲ選擇
 シ以上ハ刑法第四十五條前段ノ併合罪ナルモ其ノ一罪ニ付死刑ニ處
 スヘキ場合ナルヲ以テ同法第四十六條第一項ニ依リ他ノ刑ヲ科セス
 被告人ヲ死刑ニ處スヘク押收ニ係ル拳銃一挺(證第十一號)同實包
 五發(證第十二號)纜縞ズボン一着(證第十四號)ハ被告人カ判示
 第三ノ犯行ニ因リ得タル贓物ニシテ被告人ノ手裡ニ現存シ被害者ニ
 還付スヘキ理由明瞭ナルヲ以テ陸軍軍法會議法第四百十二條第一項
 ニ依リ被害者木下清ニ還付スル旨渡ヲ爲スヘキモノトス
 仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十四年四月二十七日

第三師團軍法會議

裁判長判士陸軍歩兵中佐	權	田	絳	三郎
裁判官 陸軍法務官	西	春	英	夫
裁判官判士陸軍歩兵大尉	稻	垣	武	藤
裁判官判士陸軍歩兵大尉	大	林	勝	雄
裁判官判士陸軍輜重兵中尉	松	井		博

右 勝本ナリ

昭和十四年五月二日

第三師團軍法會議

陸軍 錄事 大羽 賀仁 佐久

0413

報

第三五二

電報譯

五月三十一日

午後四時

午後四時五分

著

發信地

陸軍省
14.6.
受第6298號
法務局

大

臣宛

發信者 留守第三師團長

第 / 號

元野砲兵第四聯隊陸軍砲兵二等兵神
田芳一ニ對スル死刑ノ執行ハ本三十一日六
時異狀ナク實施シタリ

卷

人事極秘甲報 三五二

阪師人高第ニロハ號

神田芳一死刑確定ニ伴フ責任者處罰ニ關スル件報告

昭和十四年六月十日

第四師團長 澤田

陸軍大臣 板垣征四郎 殿

元野砲兵第四聯隊第七中隊所屬元第一補充兵役陸軍砲兵二等兵神田芳一ニ對シ昭和十四年四月二十七日留守第三師團軍法會議ニ於テ窃盜、軍中逃亡、強盜、殺人住居侵入、準強盜致死罪ニ依リ死刑ノ宣告アリ犯罪明確トナリタルニ付更メテ左ノ如ク懲罰セシニ付報告ス

左記

旧職 野砲兵第四聯隊中隊長
現職 歩兵第百五十聯隊砲中隊長

輕謹慎五日 (加罰) 歩兵中尉 伊東二郎

懲罰令第五十條ニ依リ懲罰執行ニ付テハ目下第百十四

軍部 7.7 後午 官臣
軍部 44.7.8 受第57 法務
軍部 14.6.29 補佐
軍部 14.7. 受868 兵務

0414

師團長ト協議中ナリ

野砲兵第四聯隊附

謹責

(聯隊長處罰)

主計中尉

木下

清

昭和十四年一月六日當番兵神田芳一カ同官官舎ニ於テ拳銃(實砲十四發共)及衣類ヲ窃取離隊ノ上内地ニ潛入シ該拳銃ニ依リ殺人罪ヲ犯シ死刑ノ宣告ヲ受クルニ至リタルハ其一誘因トシテ拳銃及實包ノ保管方法ニ關シ適當ナラサルモノアリニ依ル

野砲兵第四聯隊附

輕謹愼三日

(大隊長處罰)

砲兵准尉

木戸

忠

砲兵二等兵神田芳一ハ昭和十四年一月三日以來主計中尉木下清ノ當番兵トシテ服務レアリレカ同年一月六日同官所有

陸軍

ニ係ル拳銃ヲ窃取シ離隊ノ上内地ニ潛入シ該拳銃ニ依リ殺人罪ヲ犯シ死刑ノ宣告ヲ受クルニ至リタルハ中隊人事掛トシテ兵ノ身元調査就中當番兵選定ニ當リ中隊長ニ對シ輔佐十分ナラサリレモノカリシニ依ル

野砲兵第四聯隊第七中隊

輕謹愼三曰

(大隊長處罰)

砲兵軍曹

野村秋義

砲兵二等兵神田芳一ハ昭和十四年一月三日以來主計中尉水卜清ノ當番兵トシテ服務シアリシカ同年一月六日同官所有ニ係ル拳銃ニヨリ殺人罪ヲ犯シ死刑ノ宣告ヲ受クルニ至リタルハ内務班長トシテ班員ノ誘掖指導就中個人ノ實状ヲ熟知スルニ於テ十分ナラサリレモノカリシニ依ル

大臣ヨリ留守第三師團長へ

陸密第 號

曩ニ提出アリタル神田芳一軍中逃亡、竊盜、殺人、住居侵入、強盜、強盜致死事件
訴訟記録用濟ニ付返戻ス

陸密第八四五號

昭和四年五月廿七日

(理由)

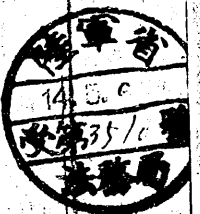
陸軍軍法會議法第五百三條ニ依リ提出アリタルモ
用濟ニ付返戻ス

長官經由

0419

三五二

三三三



昭和十四年五月四日

第三師團軍法會議檢察官陸軍法務官小幡通徳

陸軍大臣板垣征四郎殿

死刑ニ関スル訴訟記録提出ノ件

第一補充兵役陸軍砲兵二等兵神田芳一ニ對スル竊盜
軍中逃亡強盜殺人殺人住居侵入強盜強盜致死被
告事件ニ付昭和十四年四月二十七日宣告ニ係ル死刑
判決ハ昭和十四年五月二日確定致候條本件訴訟記録
提出ス

右訴訟記録ハ本日別送ス